

Ⅱ 暮らしの向上

9 景観・環境の保全と創造 2 きれいでくらしやすい生活環境の創造

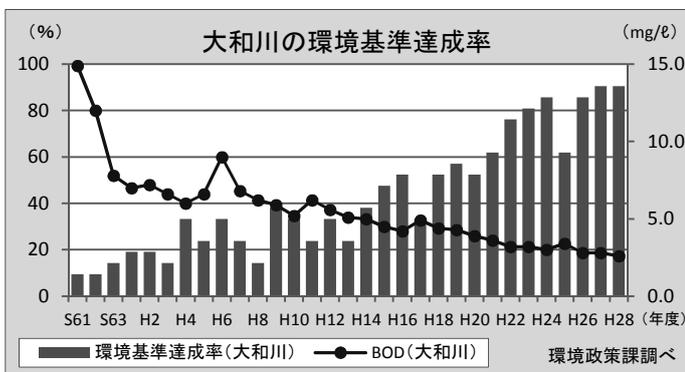
主担当部局(長)名
景観・環境局長 榎田 斉志

目指す姿

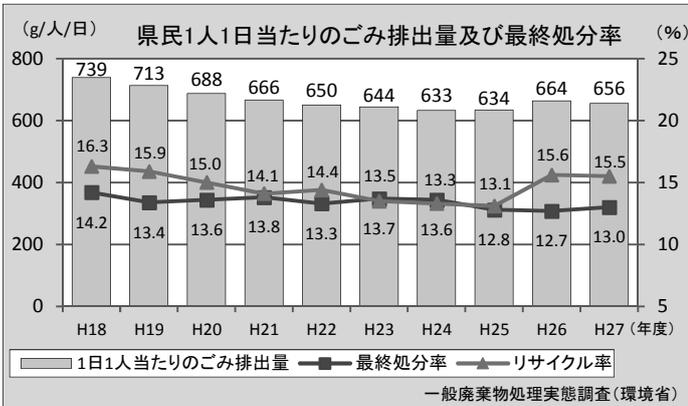
奈良ならではの”美しい自然・景観”や”快適な生活環境”を守り・創り・育む「きれいに暮らす奈良県スタイル」を構築・定着させ、「住んで良し」「訪れて良し」の地域づくりを目指します。

関係部局(長)名: 地域振興部長 村田 崇、産業・雇用振興部長 中川 裕介、農林部長 福谷 健夫、県土マネジメント部長 山田 哲也、水道局長 西川 浩至、教育長 吉田 育弘

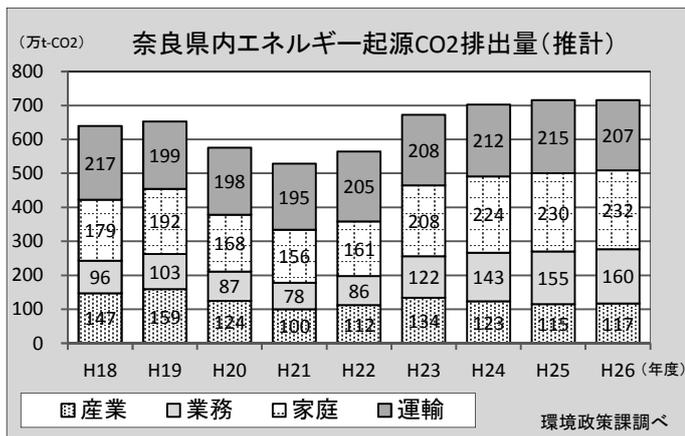
1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	誰もが安心して暮らせる、住みやすいきれいな生活環境を創造します。
取組	下水道整備及び合併処理浄化槽設置支援等を行いました。
成果	大和川の環境基準達成率は、下水道整備等が進捗したことにより、平成28年度は平成27年度と同様の90%程度で推移しています。

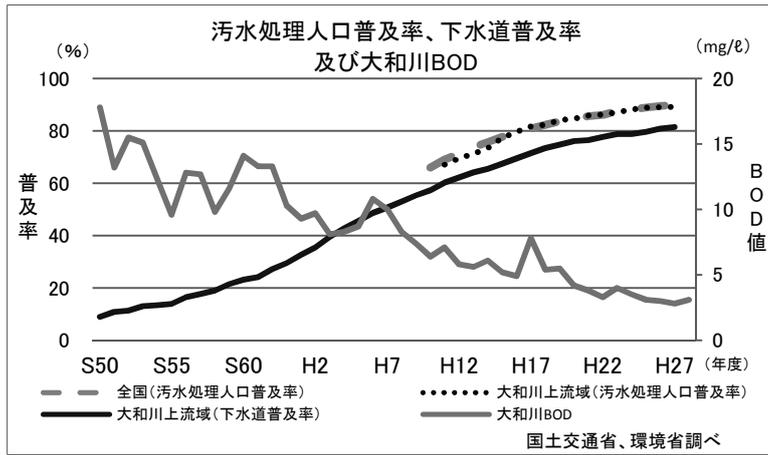


目標	誰もが安心して暮らせる、住みやすいきれいな生活環境を創造します。
取組	環境にやさしい買い物キャンペーン(レジ袋削減)を実施するなどの意識醸成に努めました。
成果	県民1人1日当たりのごみ排出量は、過去10年間では減少傾向にあり、平成27年度は平成26年度と比較して8g減少しました。



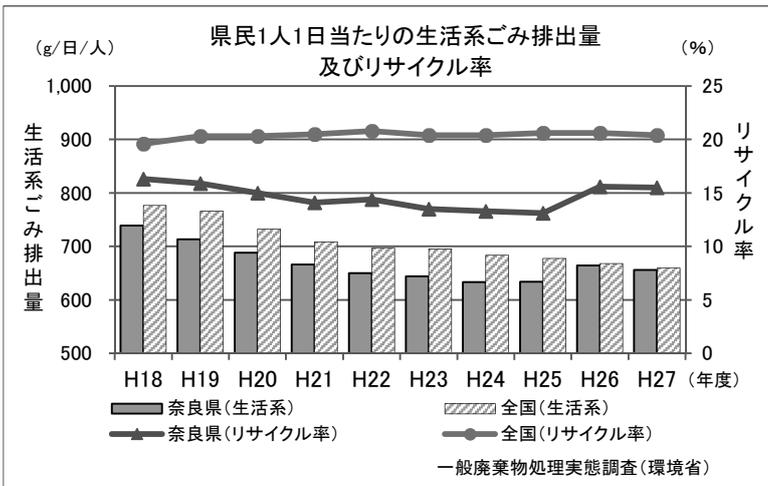
目標	誰もが安心して暮らせる、住みやすいきれいな生活環境を創造します。
取組	省エネ・節電に係る普及・啓発とともに、家庭用太陽光パネル及び蓄電池等の設備設置に対する支援を行いました。
成果	奈良県内のエネルギー起源CO2排出量は、東日本大震災以降、増加傾向にありましたが、平成26年度は平成25年度と同程度で推移しており、創エネ・省エネの取組が進んでいます。

2. 現状分析

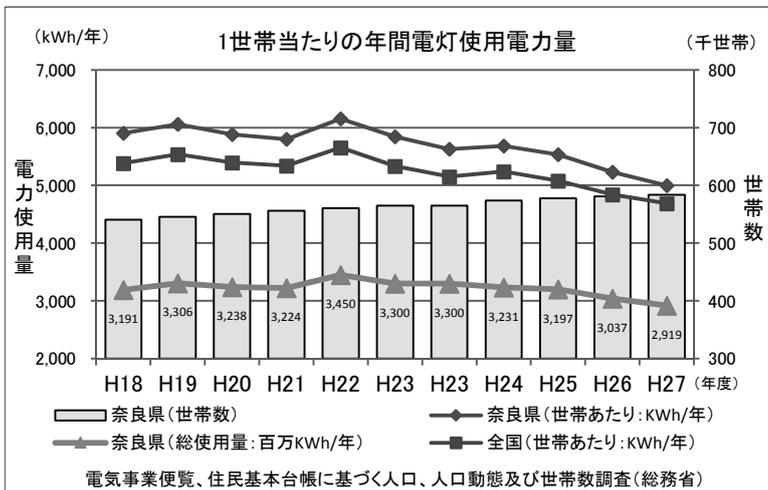


大和川の水質は、汚水処理人口普及率の上昇とともに改善が見られます。汚水処理人口普及率は、平成27年度末で89.2%(大和川上流域)で、全国平均89.9%と同程度で推移しています。

※汚水処理人口普及率
 =(下水道人口+合併浄化槽人口+コミュニティ・プラント人口)/全人口
 ※コミュニティ・プラント:市町村が設置・管理する小規模な汚水処理施設
 ※BOD:水の汚染を表す指標の1つ。数値が高いほど汚濁度高。



県民1人1日当たりの生活系ごみの排出量は、平成27年度は656gで、平成26年度より1.2%減少し、過去10年間では11.2%の減少傾向にあり、全国平均と同程度となっています。一方、リサイクル率は、平成26年度と同程度となっています。



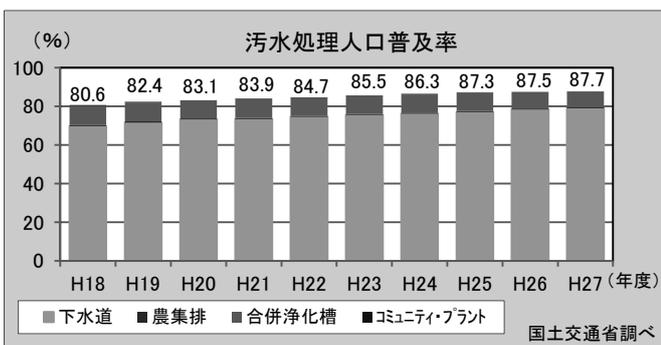
平成27年度の県内総電灯使用電力量は、世帯数が増加したものの、節電等の取組により1世帯当たりの電灯使用電力量が減少したことから、平成26年度より約4.4%削減しました。全国平均と比較して約7%多くなっていますが、平成26年度よりその差は縮まっています。

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 生活排水対策をはじめ、3Rや省エネ・節電等の取組を促進し、環境負荷を低減します。

主担当課(長)名 環境政策課長 西井 保喜

戦略目標	①生活排水対策を推進し、大和川の環境基準(BOD値)を達成します。(H26年度環境基準達成率:85.7%) ②平成29年度までに、廃棄物の排出量削減とリサイクルを推進し、家庭ごみ排出量を602g/人・日にします。(H25年度:634g/人・日)その結果、平成29年度までに、最終処分率を10.3%にします。(H25年度:12.8%) ③平成32年度までに、温室効果ガス排出量を平成17年度比で12.3%削減します。(H24年度:H17年度比4.4%増)
------	--



取組	下水道整備及び合併処理浄化槽の整備を促進しました。(①)
成果	下水道整備及び合併処理浄化槽設置促進等により、汚水処理人口普及率は平成27年度末で87.7%となり、平成26年度と比較して0.2ポイント上昇しました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
「きれいに暮らす奈良県スタイル」構築・推進プロジェクト(「大和川きれい化」推進)(①)				
単独処理浄化槽数(基)※	74,217 ↗	72,575 ↗	71,316 ↗	環境政策課
地域の河川サポート事業(ボランティア支援プログラム)による河川清掃実施団体数(団体)	101 ↗	104 ↗	98 ↘	河川課
道路沿道における草刈りや清掃活動に参加する地域ボランティア団体数(団体)	98 ↗	97 ↘	103 ↗	道路管理課
「きれいに暮らす奈良県スタイル」構築・推進プロジェクト(「奈良モデルによるごみ減量化」推進)(②)				
県と協定を締結した農業者・法人・店舗数(件)[累計]	38 ↗	44 ↗	48 ↗	農業水産振興課
不法投棄等に係る通報件数(件)	77 ↘	94 ↗	92 ↘	廃棄物対策課
温室効果ガス排出量の削減(③)				
県営水道における太陽光発電及び小水力発電の年間発電能力(万kWh/年)	304 →	304 →	304 →	水道局
再生可能エネルギー導入設備容量(kW)	240,954 ↗	330,338 ↗	403,287 ↗	エネルギー政策課
二酸化炭素吸収源の整備(③)				
施業放置林の強度間伐等面積(ha)	772 ↘	692 ↘	711 ↗	森林整備課

※は数値の低い方が良くなる指標

これまでの成果

- ・奈良県内の河川水質は改善傾向にあります。(全58地点BOD平均 H18年度:2.2mg/l→H28年度:1.6mg/l)
(①)
- ・節電効果や再生可能エネルギーの普及により、平成27年度の電灯使用電力量は、平成22年度比で約15%削減しました。(③)

4. 平成30年度に向けた課題の明確化

＜政策目標達成に向けた進捗状況＞
 ・大和川の環境基準達成率は、下水道整備等が進捗したことにより、平成28年度は平成27年度と同様の90%程度で推移しています。
 ・県民1人1日当たりのごみ排出量は、過去10年間では減少傾向にあり、平成27年度は平成26年度と比較して8g減少しました。
 ・奈良県内のエネルギー起源CO2排出量は、東日本大震災以降、増加傾向にありましたが、平成26年度は平成25年度と同程度で推移しており、創エネ・省エネの取組が進んでいます。

＜戦略目標達成に向けた進捗状況＞
 下水道整備及び合併処理浄化槽設置促進等により、汚水処理人口普及率は平成27年度末で87.7%となり、平成26年度と比較して0.2ポイント上昇しました。

＜奈良県の持っている強み＞
 【「循環型の生活スタイル」推進】
 1 再生可能エネルギー（太陽光パネル設置基数等）の普及拡大
 2 CO2吸収源となる豊富な森林資源の保有
 3 有機野菜等の消費者ニーズ（約8割の人が有機農業、エコファーマーによる農産物を買いたいと回答：H25年10月奈良まほろば市アンケート調査）
 【全般】
 4 推進協議会による企業・団体・市町村との連携・協働

＜奈良県の抱えている弱み＞
 【「大和川のきれい化」推進】
 5 大和川の支川別に見ると水質改善が進んでない河川が存在
 6 汚水処理が進みにくい山間部が多い
 7 河川の印象について、約6割の人が「やや悪い」又は「悪い」と回答：H26年度県民Webアンケート
 【「循環型の生活スタイル」推進】
 8 家庭部門におけるCO2排出割合が高い
 9 森林整備の担い手不足
 10 事業系一般廃棄物（オフィス・飲食店等から排出されるごみ）の排出量が多い
 11 ごみのリサイクル率が低い

＜奈良県への追い風＞
 【「循環型の生活スタイル」推進】
 a 再生エネルギー法成立に伴う新技術の確立及び新規企業参入の促進
 b 再生可能エネルギー固定買取制度の制定・定着
 c 原子力発電所事故及びそれに伴う電力不足問題の発生により、節電に対する意識及び自然エネルギーに対する関心の高まり
 d 木質バイオマスの利活用に対する関心の高まり（間伐、木材利用促進により、森林の適正な整備と機能保全を図る）
 【全般】
 e ごみ問題、水質汚濁に関心が高い（H26年度県民Webアンケートより）

＜奈良県への向かい風＞
 【「循環型の生活スタイル」推進】
 f 太陽光発電を中心とする再生可能エネルギーの固定買取制度の買取価格引き下げ

＜強みで追い風を活かす課題＞
 【「循環型の生活スタイル」推進】
 【重要課題】太陽光発電の一般家庭・民間施設への導入促進・普及、公共施設への導入・利用（1,a,b,c）
 【重要課題】小水力発電等の導入・利用（1,b,c）
 ・低コスト集約化施業による搬出間伐の推進（2,d）
 ・公共建築物の木造化及び内装等木質化の推進（2,d）
 ・住宅での県産材利用（2,d）
 ・有機野菜等の生産と消費の拡大（3,e）
 【全般】
 【重要課題】「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会で策定した行動計画に掲げる「大和川のきれい化」「循環型の生活スタイル」の実践活動の促進（4,e）

＜強みで向かい風を克服する課題＞
 【「循環型の生活スタイル」推進】
 再生可能なエネルギーの導入（1,f）

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞
 【「大和川のきれい化」推進】
 【重要課題】家庭での生活排水対策（5,6,e）
 【重要課題】地域社会における河川美化活動（7,e）
 【「循環型の生活スタイル」推進】
 ・レジ袋削減等家庭での地球温暖化防止への取組（8,c）
 ・多様な担い手による森林づくり（9,d）
 【重要課題】一般廃棄物の減量化・再生利用の推進（10,11,e）

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞
 【「循環型の生活スタイル」推進】
 【重要課題】「奈良の省エネ・節電スタイル」の推進（8,f）

5. 平成27年度の評価を踏まえ、平成29年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会で策定した行動計画に掲げる「大和川のきれい化」「循環型の生活スタイル」の実践活動の促進(戦略1)	「環境総合計画」において、重点的な取組として位置づけている「きれいに暮らす奈良県スタイル推進プロジェクト」(「大和川のきれい化」「奈良らしい景観づくり」「循環型の生活スタイル」)の施策推進を図るため、企業・団体、行政で構成する「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会を平成28年12月に設立し、多様な主体が連携・協働する体制を構築しました。平成29年度は、市町村や地域・団体等と連携して個別の案件に対応する部会を立ち上げ、各主体の実践活動を促進することとしました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
【「循環型の生活スタイル」推進】 太陽光発電の一般家庭・民間施設への導入促進・普及、公共施設への導入・利用(戦略1)	固定価格買取(FIT)制度等を活用した家庭用太陽光パネル及び蓄電池等の設置促進、民間太陽光発電事業等の促進、公共施設等への導入促進を行います。
【「循環型の生活スタイル」推進】 小水力発電等の導入・利用(戦略1)	・農村資源を活用した再生可能エネルギーの調査に対して支援を行います。 ・小水力、太陽光発電の導入促進、普及啓発を実施します。 ・県営水道の施設を利用した新エネルギー発電(小水力発電)の更なる導入を検討します。
【全般】 「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会で策定した行動計画に掲げる「大和川のきれい化」「循環型の生活スタイル」の実践活動の促進(戦略1)	「大和川のきれい化」 ・水質改善強化が必要な河川毎に部会を設置し、企業・団体、市町村等が連携して水質改善とともに、きれいな水辺空間づくりを推進します。 「循環型の生活スタイル」 ・ごみ処理広域化の取組の進捗管理及び長期的視野に立った更なる広域化の枠組みづくりの検討を行います。 ・ジャーナルやイベントでの情報発信等により、「循環型の生活スタイル」の定着を推進します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
【「大和川のきれい化」推進】 家庭での生活排水対策(戦略1)	・下水道の普及促進を図ります。 ・単独浄化槽から合併浄化槽への転換を促進します。 ・水質改善課題の見える化の更なる推進を図ります。
【「大和川のきれい化」推進】 地域社会における河川美化活動(戦略1)	・河川美化活動団体の増加を促進します。 ・地域団体等による河川美化活動内容の広報周知を促進します。
【「循環型の生活スタイル」推進】 一般廃棄物の減量化・再生利用の推進(戦略1)	奈良モデルによる「ごみ処理の広域化」の取組を継続・発展させ、更なる「ごみ減量化」に向けて、地域特性に適した3R(リデュース・リユース・リサイクル)等を進めます。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
【「循環型の生活スタイル」推進】 「奈良の省エネ・節電スタイル」の推進(戦略1)	エネルギーを効率的に利用するライフスタイルへの変換を目指す「奈良の省エネ・節電スタイル」を推進します。